

大きな揺れを感じたら、自分の身は自分で守る「自助」の行動が大切です。あわてず、落ち着いて行動しましょう。



高層階の大きな揺れに注意！

大きな揺れを感じたときや、緊急地震速報を見聞きしたときは、丈夫な机の下などで揺れがおさまるのを待ちます。

特に、高層階はより大きく揺れ、長周期地震動が発生すると揺れが非常に長く続くため、注意が必要です。



分かりやすくするため揺れを誇張しています。

長周期地震動
周期（揺れが1往復するのにかかる時間）が長い大きな揺れ。
規模の大きな地震で発生しやすく、遠くまで弱まらずに伝わる。
堆積層が厚い石狩平野などでは揺れが増幅され、大きな影響が出やすい。

家具の転倒・移動

固定されていない家具やキャスター付きの家具は、転倒・移動の危険があります。

ガラスの飛散

窓ガラスが割れたり、食器が飛び出して割れる危険があります。窓際や台所、蛍光灯の下などから離れます。破片に注意し、室内でもスリッパや靴などをはきます。

区役所で配布している防災の資料

「さっぽろ防災ハンドブック」
災害に関する知識や事前の備えなどを紹介しています。



「地震防災マップ」

想定し得る最大級の地震が起きた場合の揺れの強さ、液状化の危険度、建物の全壊率を予測した結果を示したマップです。

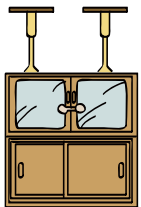


室内の安全確保

地震で家具が転倒・落下・移動すると、けがや火災の原因となるだけでなく、出入口付近の家具が扉を塞ぎ、避難の障害となる可能性があります。

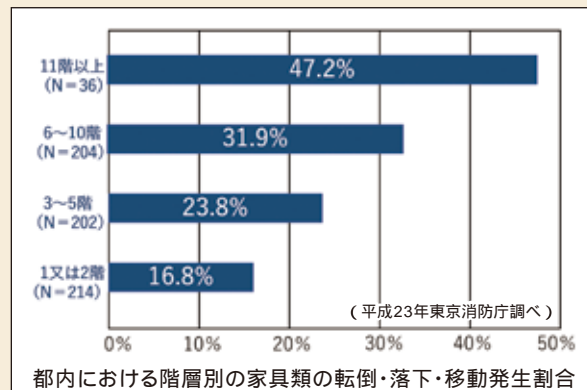
けがや障害物により自力で家から脱出ができなくなると、火災に巻き込まれたり、真冬には低体温症で命を落とす危険があります。

家具には転倒防止の突っ張り棒、ガラスの飛散防止フィルム、開き戸の留め具などの対策を考えましょう。



東日本大震災発生後に東京消防庁が実施したアンケート調査では、高層階になるほど、家具類が転倒・落下・移動している割合が多くなる結果となりました。

これは、長周期地震動が一因と考えられています。



「移動」とは、家具類が転倒せずに概ね60cm動いた場合をいう。

(東京消防庁「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」より)

